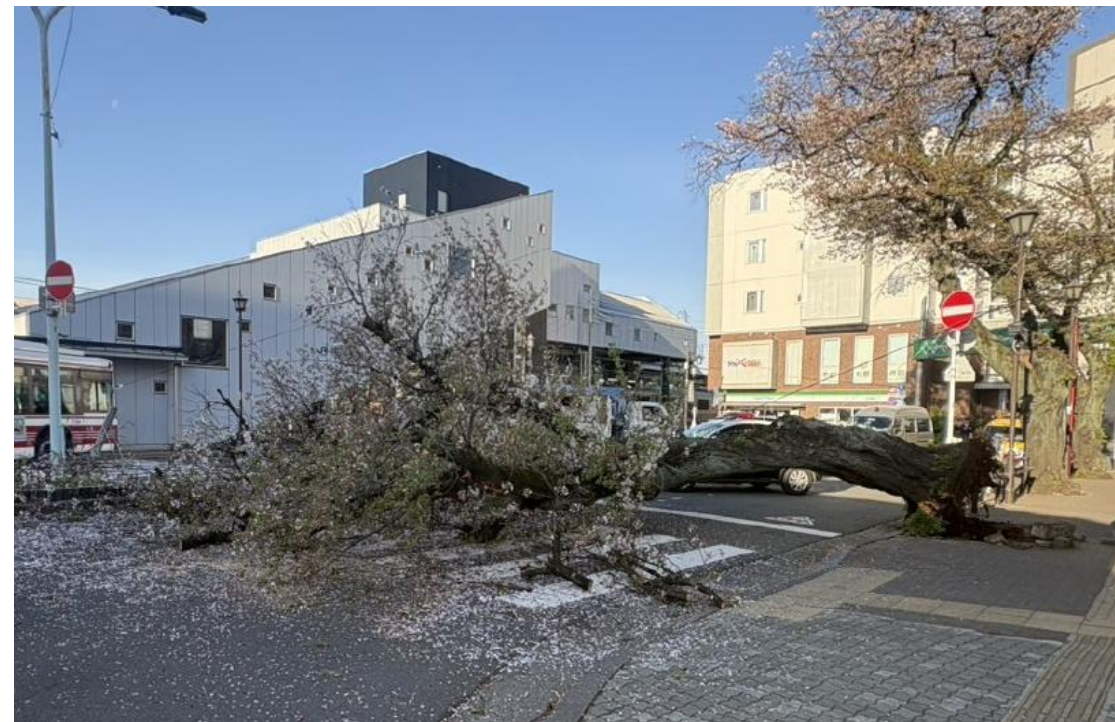


4月9日 矢川駅北口ロータリーの倒木の状況

■令和8年（2026年）4月9日午前5時半頃に矢川駅北口ロータリーにおいて桜の木の倒木が発生

- 樹木の情報（診断結果）
 - ・ 街路樹診断の結果：総合判定B2
→著しい被害がみられ3年後に再診断
- 考えられる要因：複合的要因によるもの
 - ・ 老朽化し根や幹が一部弱くなっていた
 - ・ 風を受けた際自重を支えきれなかった
 - ・ 冬の間雨が降らず乾燥していた
 - ・ 土の中に広く根が張れていなかった など



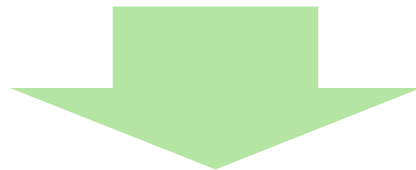
▲倒木した桜の木

市の管理樹木全般 | 現在までの対応状況（目視点検）

■職員が目視により点検を実施

国土交通省「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針（案）」、東京都建設局「令和3年度街路樹診断等マニュアル」を参考に職員等が点検を実施しました。

- 街路樹及び公園の主要な樹木
- 学校敷地内の樹木
- 公共施設の樹木



一部に、専門的な診断を行う樹木や過去の診断結果を踏まえて対応の必要な樹木あり

矢川通り | 現在までの対応状況と今後の対応の方向性

■過去の診断結果による安全の確保

- 現在矢川通りでは、過去の街路樹診断の結果により幹や根株の空洞率が50%以上であることによりC判定（極めて不健全な状態）と診断され、強風時に倒木する等の危険がある桜12本のうち、5本を伐採しました。（令和8年5月28日17:00現在）このほかにも7本の桜が同じように幹内の腐朽が進行しているため、順次伐採します。
- C判定以外の桜（約50本）についても、枯れ枝の除去や雨風からの物理的な影響を軽減するために剪定します。

(参考) 樹木診断の判定基準とC判定の根株の状況

総合判定		腐朽空洞率 参考基準値
A	健全か健全に近い	10%未満
B 1	注意すべき被害が見られる	10%以上 30%未満
B 2	著しい被害が見られる	30%以上 50%未満
C	不健全	50%以上

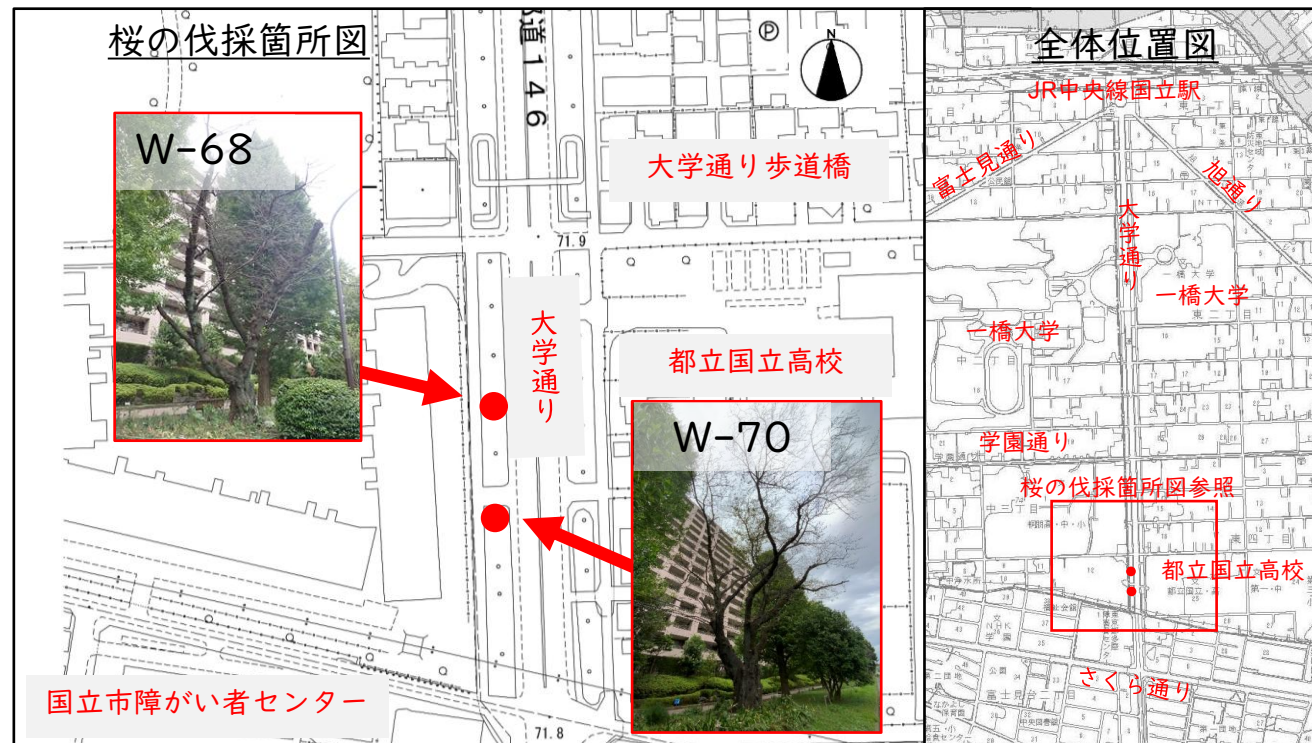


伐採日：令和8年5月13日
場 所：矢川通り

大学通り | 現在までの対応状況と今後の対応の方向性

■過去の診断結果による安全の確保

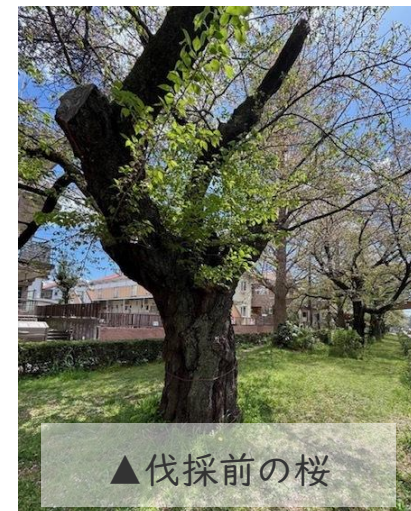
- 樹木医による樹木点検の結果により、緑地帯の桜2本は生育維持が困難な状態であり、更新が望ましいと診断されたため、6月末を目途に伐採します。



【よくあるお問い合わせ】

Q.まだ葉や花を出している樹木なのになぜ伐採するのですか

A.一見、元気そうに見える樹木でも、内部は腐朽して空洞になっていることがあります。その場合、強風などの影響で折れたり倒れやすくなっているので、倒木による事故を未然に防ぐために、伐採することがあります。



全体的な対応方針

【既に終了】

1. 緊急的な対応として、街路樹や公園のほか、学校など市の管理するすべての施設において、明らかに危険性のある樹木の有無を確認するため、職員の目視による点検を行います。

【今後、順次対応】

1. 職員による緊急点検に加え、造園業者や樹木医による専門的な見地から外観等の簡易的な診断を行います。
2. 「職員による緊急点検」及び「造園業者や樹木医による外観等の簡易的な診断」により詳細な診断が必要と判断した場合には、より精度の高い診断を実施します。
3. 点検及び診断結果（過去に実施した診断結果を含む。）により倒木の危険度の高いと判断した場合には、安全を確保するため剪定や伐採を検討します。特に強風による倒木の危険性が高まる台風シーズンを意識しながら対応します。
4. 樹木を伐採した場合には、市内の緑を確保していく観点から植替えを前提に検討します。特に、将来的な市内の桜のあり方については、市民や関係団体の意見を聞きながら、管理上の制約や安全性も考慮して検討を進めます。

※今後の診断結果等により、安全確保の観点からやむを得ず伐採を行う場合や大規模な剪定を行う場合には、あらかじめ市ホームページ等によりお知らせいたします。